





# 審査結果報告書

2020 年 / 月 27 日

主 査 氏 名 岩 瀬 優 美 

副 査 氏 名 田 中 浩 和 

副 査 氏 名 生 地 新 

副 査 氏 名 涿 瀬 裕 子 

1. 申請者氏名 : DM16008 大島 裕子

2. 論文テーマ : 認知行動アプローチに基づくアンガーマネジメント・プログラムの有効性

3. 論文審査結果 :

本研究では、アンガーマネジメント・プログラムを作成するにあたり、これまでの先行研究について十分に検討し、認知再構成法とエクスポージャー法から構成する集団教育によるアンガーマネジメント・プログラムを作成している。予備的研究では、26名の大学生を対象に、新たに作成したアンガーマネジメント・プログラムを実施し、特性怒り、状態怒り、怒りの抑制、怒りの表出、怒りのコントロールについて検討している。その結果、本研究で作成したアンガーマネジメント・プログラムは、特性怒りと状態怒りにおいては強い有効性を、怒りの抑制や表出にはある程度有効性を認めていた。そのうえで、対象者数を増やして、無作為化比較試験を実施している。その結果、本プログラムは、実施直後においては特性怒り、状態怒り、怒りの抑制と表出に有効であり、プログラム終了後の5から6週間においても同様に有効であり、その有効性が持続していることがわかった。

このように本研究は文献および予備的研究を実施してプログラムを十分検討し、そのうえで無作為化比較試験によって検討しており、非常に意義のある論文である。介入は大学生を対象に8回ほど集団で行っており、今後、大学教育においてもアンガーマネジメントの取り組みを考えるうえで、非常に貴重な結果を示したと言える。

審査会ではわかりやすいプレゼンテーションであり、議論も活発になされ、質問に対しても適切に回答していた。今後、フォローアップの期間を増やして検討するなど、今後の研究のより一層の発展が期待される。以上より、本研究は博士課程の学位論文にふさわしいと考えます。